

にするものでそれをまきとり両端を切斷し検査して成品とするもので幅は 50mm 迄可能であるが普通は 70mm ~80mm で厚さは 0.8mm まで可能とされているが実際には 1.2mm 位まで、普通は 1.4mm である。

以前當所には 15t 平爐が 4 基あつたが戦争中解體し中國に向け輸送中沈められたので平爐の新設は當分見込ないが電氣爐は 2 基あり又小型工場も近く運轉される由である。

見學終了後控室にて茶菓の御接待に預りつゝいろいろ有益なお話を伺い 2 時 30 分本日の見學會を無事終了した。(鶴野)

日産自動車鶴見工場及新日本鑄造會社 (第 6 班)

4 月 3 日夜來の雨にも拘らず、新子安の日産自動車鶴見工場に 9 時半頃見學者一同集合した。事務所にて設備課の方より工場の製造工程を記したパンフレットに依り概要の説明があつた。同工場はノッサンなる貨物自動車を製造し鑄造より車體の組立迄一貫した工場であるが鑄造工場は進駐軍關係の敷地内にある爲に希望者約 10 名が許可を得て午後見學することとした。10 時より工場へ案内された。工場は良く整頓せられて居り、コンベアシステムが良く出来ていた。乾燥工場では重油乾燥爐と赤外線乾燥爐を用いて居た。赤外線乾燥爐は赤外線電球 (200W) 數百個を付けたアルミ製の乾燥爐で中央に乾燥中の運轉台が置いてあり、周圍より赤外線ランプが煌々輝いているのは從來の乾燥爐に比し一歩進んだ感があつた。一回の乾燥が約 40 分にて塗裝面の光澤が良く、美しい表面が得られるとのことであつた。熱處理工場では現在高周波焼入を計畫していた。鍛造工場では同社獨得と言われるピストンロッドのワンヒートクオージングを行つて居りハンマーの配置等に考慮が拂はれていた。プレス工場では大小プレスが數台、大きいものは 2000t 程度でポデーやシャーシーを冷間加工していた。工作工場では米國製の焼入型材よりクランクシャフトの鍛型を型削り盤で削つていたのは一同の興味をそゝつた様であつた。機械工場では多數の内外の工作機械が整然と並んで居り、鑄造工場よりのエンジンブロックを加工しシリンダーの孔開け等を行つていた。最後に組立工場では數名の工具がコンベアから流れて來るエンジンにギャップゲージを片手に 6 本のピストンを合せて組立てゝいたが熟練とは言へ能率良く運んでいた。工場を一巡した時は 11 時半であつた。現在同工場では月産 1100 台のトラックを

製造して居り、講和を控えて輸出品として又日本の輸送原動力として同社の活躍に期待する處大であり、御發展を祈りつゝ同社を三々五々辭して新日本鑄造へ向つた。

鶴見臨港線白石驛で下車すると新日本鑄造の正門があつた。講堂にて提社長、笹部常務より會社の歴史現況を話された。それに依ると同社は 大正 9 年淺野總一郎氏の創立にかゝる工場で終戦前は 大森蒲田にも工場を有し又本社工場に鍛造工場をも新設する豫定の處戦災に遭い且終戦後の不況にて現在は本社工場のみ操業している。同工場は敷地 22,000 坪、建坪 8000 坪従業員 650 名にて設備としては 8t 熔銑爐 2 基 15t エル式電氣爐 2 基、2t エル式電氣爐 2 基 500 瓦高周波誘導爐 2 基を持ち月産鑄鐵 1000t、鑄鋼 500t、鋼塊 800t、高滿俺鋼 80t にて鑄鋼品、鑄鐵品リムド及びキルド鋼塊鑄型(最高 10t 位迄)高滿俺のライナーや齒板等を製造している。同社も最近になつて鐵鋼事情好轉の爲經營が健全化しつゝあり、今後の發展を期待されている。續いて工場を見學した。現在の國內事情では屑鐵の不足を來して居る折柄、工場内に積まれた屑鐵も悪く熔解に従事する人々の苦勞が察せられた。2t の電氣爐、高周波誘導爐工場を見學し小型鑄鋼品を主に作つていた。15t 電氣爐は爐修中にて作業は見られなかつたが相當大型の鑄鋼を行つている様であつた。熔銑爐工場では製鋼用鑄型を製作して居り、鑄型の砂型を作つている作業は興味があつた。同社の技術と廣い敷地に依り今後一層の擴充進展があることと思われる。午後 3 時半同社の見學を終り一同解散した。(吉井 周雄記)

機械試驗所 (第 7 班)

工業技術廳機械試驗所(杉並區住吉町)及び村山支所(都下、東村山)の見學當日は生憎雨天であつたが熱心な方々が鐵鋼協會、金屬學會所屬者合計で本所に約 40 名、村山には約 10 名參會された。本所の見學順路は次表の如くである。

206	312	309	303
會議室—電子顯微鏡—齒車—軸受—ミシン液體ホー			
302	462	259	261 137
ニング—應用電氣—光學—超仕上—砥石—精密機械			
54	53		
地下一計測—光學—廳舍外—靜電塗裝—低溫、恒溫			
機關—低溫室—合成樹脂—材料試驗室—工場—材料			
試驗室—溶接實驗室—鍍金實驗室—伸線室—鍛造室—			
調質室—鑄造工場—陸用内燃機檢查室—南門			

材料關係で特に注目をひいたのは、電子顯微鏡(靜電型、磁界型)陰極線カメラ、ガイガー、カウンター付 X